

議会広報分かりやすく

広尾町議会初の研修会



住民にとって分かりやすい広報づくりを学ぶ広尾町議ら

【広尾】町議会(堀田成郎議長)は、議員の資質向上を図るため、20日、コミュニケーションセンターで初めて議員研修会を開いた。議会広報の充実をテーマに、外部講師の講義で議会活動の効果的な周知方法への認識を深めた。

住民の立場で文章作り

2015年に制定した議会基本条例に基づく議会改革の一環。町議会は毎月「議会会だより」を全戸配布している。定例会の一般質問に関する内容は各議員がまとめており、より分かりやすい広報を目指して開催した。

研修会には南十勝の町村議会にも参加を呼び掛け、広尾、大樹、更別の議員ら23人が参加した。講師には自治体議会の広報作りに携わっている「会議録センタ

1」(本社埼玉県)の矢嶋洋美氏と杉本誠一氏を招いた。

アンケートの結果、住民の7割が議会広報で議会活動の情報を得ていることや、広報誌の中でも応援する議員の考え方が分かる一般質問の内容が注目されていることが示された。杉本氏は「住民の立場で、1度読めば理解できる文章を心がけて」とし、句読点や助詞の使い方を伝えた。

参加議員は練習問題などにも取り組みながら、分かりやすい文章について学んだ。このほか、見出しの付け方や広報誌のレイアウトの方法についても指導を受けた。

堀田議長は開会に際して「住民に対し、議員がどのような案件をどう議論し、議決権行使したかを分かりやすく伝えなくてはならない。議会広報は議員活動のフィードバックにも重要。この研修会を今後の活動の糧にしてほしい」と述べた。

(伊藤亮太)